

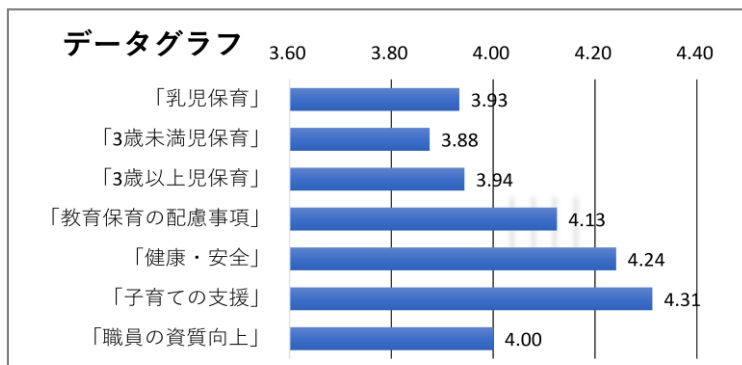
令和7年度幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和8年3月30日

学校法人真徳寺学園 ながさわこども園

評価方法				
5 あてはまる	4 どちらかといえばあてはまる	3 どちらでもない	2 どちらかといえばあてはまらない	1 あてはまらない

評価	項目数	平均
第2章第2節 乳幼児期の園児の保育	15	3.93
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	32	3.88
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	53	3.94
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	16	4.13
第3章 健康及び安全	29	4.24
第4章 子育ての支援	16	4.31
第5章 職員の資質向上	9	4.00
計	170	4.04



総合
令和7年度も、未満児クラスでは育児担当制を取り入れ、一人一人の生活リズムや発達、家庭環境に応じた丁寧な関わりを大切にしながら、子どもたちが安心して園生活を送ることができるよう努めた。また、全学年を通して子どもの主体性を尊重し、自ら考え、選び、行動できる環境づくりを進めた。子どもが安心して自分の思いを表し、好きな遊びを見つけてじっくり取り組めるよう、保育室の環境構成や保育者の関わりを見直しながら保育を行った。一方で、クラスや保育者によって環境設定や育児担当制の実施方法に差が見られる場面もあり、園全体で共通理解を深めていくことが今後の課題である。 暑い時期が続き戸外遊びの時間が限られる中、全学年でリズムあそびを継続し、聴く力、人と関わる力、運動能力、反応力などを育む活動として定着してきた。構造化された活動は、特別に支援が必要な子どもにも受け入れやすく、見通しを持って安心して参加できる活動となっている。また、わらべうたを積極的に保育に取り入れ、保育者との触れ合いや一对一の関わりを大切にした。 3・4・5歳児では「わくわく」の時間を通して、身近な自然や環境、地域の人との関わりに関心を持ち、自分の経験を言葉にしながら考える姿が見られた。保護者の協力を得ながら、子どもたちの興味や経験が広がる機会を持つこともできた。 SDGsの取り組みについては、「大垣市市民環境賞」受賞後も活動を継続し、園庭を生かした循環型の保育実践を進めた。大垣市環境市民会議の皆さんに段ボールコンポストの方法を教えていただき、4・5歳児は本格的に生ごみのたい肥化・減量化に挑戦した。給食等で出る生ごみがたい肥となり、園庭の花壇や野菜づくりに生かされ、再び子どもたちの遊びや食育につながっていく循環を体験することができた。こうした活動を通して、子どもたちは命や食べ物の大切さ、資源を無駄にしないこと、自然と人とのつながりを実感する機会となった。 保護者に対しては、ドキュメンテーションや動画、今週のワンカット等を通して、園での子どもたちの姿や保育内容を伝えるよう努めた。一時保育事業については、事業継続に向けた課題を検討した結果、令和8年3月31日をもって終了することとなった。今後も、保護者や関係機関と連携し、職員の資質向上に努めながら、子ども一人一人が主体的に遊び込める環境づくりを進めていきたい。

準拠資料：全国認定こども園研修研究機構作成「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育者支援のための自己評価ワークシート(Ver.1.1)」